

## R6教職員自己評価集計

NO	評価項目	回答数	R6	判定	R5	4の 回答	3の 回答	2の 回答	1の 回答	肯定的 回答%	否定的 回答%
1	学校教育目標の達成に向け、学校経営方針に基づいた学校運営がなされている	25	3.6	A	3.6	16	9	0	0	100%	0%
2	教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係のもと協動的に教育活動が行われている	25	3.4	A	3.4	11	13	1	0	96%	4%
3	施設設備について定期的に点検し、結果を的確に処理（整備・保全）している	25	3.6	A	3.8	14	11	0	0	100%	0%
4	事故や災害等に対し、適切な対応マニュアルが整備され、危機管理に努めている	25	3.5	A	3.6	12	13	0	0	100%	0%
5	生徒の個人情報について、適切に管理・保護されている	25	3.4	A	3.5	12	12	1	0	96%	4%
6	新型コロナウイルス等について、正しい知識で感染防止対策に取り組むよう努めている	25	3.6	A	3.7	15	10	0	0	100%	0%
7	ライフ・ワーク・バランスを意識した業務改善に取り組んでいる	24	2.9	B	3.0	2	17	5	0	79%	21%
8	新学習指導要領に基づき「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた教育活動の実践を目指している	24	3.5	A	3.4	11	13	0	0	100%	0%
9	校内研究の主題である、学び合いを通じた確かな学力の向上に向け、授業改善に取り組んでいる	24	3.4	A	3.6	9	15	0	0	100%	0%
10	道徳の授業の充実にも努めるとともに、他者を思いやる心や規範意識を育てる教育活動を日常的に実施している	25	3.4	A	3.6	11	14	0	0	100%	0%
11	GIGAスクール構想の実現に向け、1人1台端末の積極的な利用に努めている	25	3.3	A	3.3	9	15	1	0	96%	4%
12	生徒の問題行動に対し、報告・連絡・相談の体制が確立され、共通理解の上で組織的に対応している	25	3.3	A	3.5	8	16	1	0	96%	4%
13	いじめの早期発見に努めるとともに、早期解決に向けて組織的に取り組んでいる	25	3.7	A	3.6	17	8	0	0	100%	0%
14	保護者との対応や関係諸機関（SC・SSW・SS等）との連携が、スムーズに行われている	25	3.4	A	3.5	12	12	1	0	96%	4%
15	養護教諭やスクールカウンセラーなどとの連携が、教育相談に生かされている	25	3.7	A	3.6	18	7	0	0	100%	0%
16	「師弟同行」を実践するとともに、教師が生徒の模範や理解者・支援者となりえている	25	3.4	A	3.3	9	16	0	0	100%	0%
17	不登校傾向のある生徒の支援に配慮し、必要に応じて関係機関と連携を図りながら対応している	25	3.5	A	3.4	12	13	0	0	100%	0%
18	特別支援教育について共通理解が図られ、保護者や生徒の抱える諸問題に真摯に対応し、個別の支援計画に基づいて手立てが進められている	24	3.3	A	3.3	7	17	0	0	100%	0%
19	学校行事や生徒会活動等の取り組みが、生徒の自主性や協調性を養い学校生活の充実につながっている	25	3.3	A	3.4	8	17	0	0	100%	0%
20	部活動は、主体的・意欲的な取り組みを通じて達成感を得られるよう、運営の工夫がなされている	25	3.4	A	3.3	10	15	0	0	100%	0%
21	合唱を推進する活動が、計画的・効果的に行われ、生徒の心の教育や集団づくりに役立っている	25	3.6	A	3.6	15	10	0	0	100%	0%
22	朝・帰りのあいさつ運動などを通して、あいさつができる生徒の育成に努めている	25	3.3	A	3.2	9	14	2	0	92%	8%
23	生徒の学習や生活の様子を保護者に知らせ、保護者との相互理解を図り、連携している	25	3.4	A	3.3	10	15	0	0	100%	0%
24	各種たよりやホームページ・学校連絡メールを活用し、保護者や地域への情報提供に努めている	25	3.5	A	3.5	13	12	0	0	100%	0%
25	目指す児童・生徒像（ふるさと、人、学びを大切にす甲西の子）を意識して教育活動の推進に努めている	24	3.4	A	3.2	10	14	0	0	100%	0%
26	義務教育9年間を見通した教育課程を編成し、実践につなげている	24	3.3	A	3.2	7	16	1	0	96%	4%
27	小中で連携した研究の推進や交流活動を展開することにより、中1ギャップの解消につなげている	24	3.3	A	3.0	9	14	1	0	96%	4%

## 5 教職員自己評価の考察

### (1) 教職員自己評価集計結果の概略

教職員自己評価については、25名(非常勤・市職員含む/職務内容により回答不能な項目は未回答)より回答を得た。評価対象である全27項目が、回答平均3.0以上のA判定であり、ほとんどの項目について肯定的な回答が85%以上の結果となった。内訳についてみると、昨年度比で0.1上回った項目が8、0.2上回った項目が1、0.4上回った項目が1、反対に0.1下回った項目が6、0.2下回った項目が4、残りの7項目は同等の数値であった。数値的には昨年比で低下した項目はあるものの、全体的な結果から、引き続き本校の教職員が、学校教育目標並びに学校経営方針を概ね意識して教育活動(職務)の遂行に努めていることが分析できる。

### (2) 各分野の考察

#### I 学校経営・組織・安全管理

7「ライフ・ワーク・バランスと業務改善」の項目は、2.9と昨年比で0.1ポイント低下した。肯定的回答率も79%と全質問項目の中で最も低く、その内訳も「だいたいそう思う」の回答が多くを占めていることから、十分に肯定的な回答とは判断しかねる。

働き方改革や多忙化改善について広く認知され、また指摘を受ける状況から、勤務時間に対する意識は、職員間で高まってきているものの、まだまだ業務の効率化や精選などが必要である※。部活動の地域移行に係る取り組みも道半ばの状況にある。職場内だけでの改善には限界や困難さも感じられるが、「より柔軟な勤務体制の継続と進展」「協働的な取り組みと行事や業務の精選」等を図り、少しでも「多忙感」の解消につなげていきたい。

※4月から12月までの、1ヵ月あたりの勤務時間外在校時間の平均80時間超は2名であった。

【多忙化解消に向けた具体的取り組み(例)】

- 計画的かつ柔軟な年休取得と勤務時間管理(定時退勤の勧めなど)
- チームとして協働的に取り組むことによる個人的な負担感の軽減  
→学校行事(学園祭・強歩大会・生徒会選挙等)の具体的な分担の可視化
- 可能な限りのペーパーレス化※甲西中HPや安心メール・Googleフォーム等の活用
- 仕事の優先順位を意識した業務改善(各個人) など

#### II 教育課程・学習指導

本分野は、4項目中3項目が肯定的回答率100%、1項目が96%であった。コロナによる影響も軽減され、多くの教育活動が本来のかたちに戻りつつある。

8「新学習指導要領に基づき「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた教育活動の実践を目指している」の項目については、3.5(昨年比+0.1)となっている。これも誤差的なものを受け止められるかもしれないが、今年度も、芸術鑑賞教室・合唱指導・学園祭・道徳公開等、様々な場面で地域や保護者の力を借りながら教育活動ができていることへの前向きな考えの表れと捉えることができる。また、来年度からCSが導入されることで、更に開かれた教育課程を表現させていきたい。

9「学び合いを通じた確かな学力の向上に向け授業改善」の項目については、肯定的と言いつつも、3.4(昨年比-0.2)となった。多くの職員が、ICTを用いた授業改善や教材研究に励んでいることは間違いないが、対面授業によるICTの「より効果的な」授業改善(発言や記述などのアウトプットとICTの調和のとれた授業)が今後、更に必要であろう。

#### III 生徒指導・教育相談・特別支援教育

12「生徒の問題行動に対し、報告・連絡・相談の体制が確立され、共通理解の上で組織的に対応している」の項目は、3.3(昨年比-0.2)となった。ただ、このデータは単に否定的に見ているということではなく、「報告連絡相談の円滑な学年間の共有」など、今ある課題を、前向きに改善していこうという建設的意見として読み取るべきだろう。そして、それらの課題を、来年度に向けて3学期から改善していかなければならない。

14「保護者との対応や関係諸機関(SC・SSW・SS等)との連携が、スムーズに行われている」の項目についても、3.4(昨年比-0.1)となった。「必要に応じて外部機関に協力を要請したり、こちらから情報を提供したりすることも必要」という建設的意見もあったように、2学期まで

の課題として、関係機関への接続で、若干初動対応が遅れてしまうケースもあった。ただ、多くの場合、特に保護者への対応については、各学年とも「誠意とスピード」をもって対応することができたことも事実で、保護者からの信頼も勝ち取っていると見える。

18「不登校傾向のある生徒の支援に配慮し、必要に応じて関係機関と連携を図りながら対応している」の項目は、3.3(昨年と同数値)と低めの数値となっている。

本校では、特別支援学級担任及び交流学級担任が常に連携し、学年及び学校全体で「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」に基づいた支援や指導がなされている一方、「特別支援級の個別支援計画等に関する職員間の情報共有等が適切になされていない」という意見が一部で見られた。3学期以降、改善していく必要がある。今後も生徒の将来を見据えた教育的支援や指導を一層充実させていきたい。

生徒指導については、問題や困り感を抱えた生徒に対応するにあたり、家庭要因を抱えているケースが増えてきている。今年度も定期的に計画した校内支援委員会により、職員全体での情報共有に努めて支援策を検討するとともに、教育相談担当をコーディネーターとして、SCや子ども家庭相談課及び児童相談所等と連携してきた。今後も関係機関はもとよりSSWとも連携を密にした対応が必要である。

#### IV 特別活動

本分野は、4項目中3項目が肯定的回答率100%、1項目が92%であった。

19「学校行事や生徒会活動等の取り組みが、生徒の自主性や協調性を養い学校生活の充実につながっている」の項目については、肯定的回答率100%であるものの、昨年比で0.1ポイント下回る3.3と低めの値が示された。特に具体的な記述はなかったが、「生徒による自治的活動」を仕組むことを意識した指導が必要であろう。今後も、生徒の自主性を高められるように指導していきたい。

22「あいさつができる生徒の育成」の項目については、3.3(昨年比+0.1)ではあったが、肯定的回答率については92%となっている。今年度も、小中連携で中学生が各小学校に出向いてあいさつ運動に取り組んだり、青少年育成南アルプス市民会議主催のあいさつ運動に参加したりすることができた。生徒指導主事中心に、各学年・部活動・委員会レベルで、日常のあいさつから「普通にできる」取組を進めてきたことも、2学期末には成果として現れたと考える。

#### V 保護者・地域連携

肯定的回答率は全て100%であった。

23「保護者との相互理解と連携」は、昨年を0.1ポイント上回る3.4となった。14でも言及しているが、保護者への対応について、昨年末まで本校職員の「誠実さ」を身にしみて感じる事ができた。これまでの対応状況をふり返るなかで、保護者・地域との良好な関係を保つことができておりと実感している。

また、昨年11月9日に行われた「甲西こども祭り」では、本校生徒20名がボランティアとして参加させていただいた。この日の本校生徒の活動ぶりが好評で、多くの関係者や地域の方からお褒めの言葉をいただいた。この取組も、来年度からのCSの活動に関わる大きなヒントになったと感じている。

#### VI 小中連携

3項目の肯定的回答率は、25100%(昨年比+4)・2696%(昨年比+4)・2796%(昨年比+8)であり、数値も、253.4(昨年比+0.2)・263.3(昨年比+0.1)・273.3(昨年比+0.3)と、比較的良好な数値となった。なかでも27「連携した研究の推進・交流活動の展開と中1ギャップの解消」の項目については、昨年度に比べ大幅な伸び率を示している。来年度のCS発足に向けての好材料となった感がある。CS(コミュニティースクール)発足に向けて、職員が自校のみでの活動ではなく「小中連携を可視化」させながら、甲西地区4校が活動を共有し、連携していきことができるように今後も活動を仕組んでいきたい。

また、積極的な問題提起としては「まず小学校には、自主学習の定着を強くお願いしたい。(それを受けて中学校では)勉強から逃げない粘り強い生徒を育成したい」「支援クラス訪問は見るが、交流クラス(通常学級)と小学生との交流についてあまり見聞きしない」等の記述があった。今回の反省をもとに、円滑な小中連携に向けた改善を図る必要がある。